

第 3 回 館山市議会定例会会議録
(第 5 号)

1 昭和59年9月26日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1 番	神田 守隆	2 番	田沢 勝信
3 番	山中金治郎	4 番	日下 君敏
5 番	川名 正二	6 番	生稻 陸
7 番	榎本 春光	8 番	小宮 利夫
9 番	福原 勤	10 番	横溝 功
11 番	飯田 義男	12 番	石井 謀
13 番	石井 昌治	14 番	伊藤幸太郎
15 番	渡辺 昭夫	16 番	松下 正己
17 番	近藤 好雄	19 番	黒川 平治
20 番	石井 武敏	21 番	吉田勇治郎
22 番	林 豊	23 番	伊賀 多朗
24 番	流山源次郎	25 番	五十嵐 昇
26 番	石井 正	27 番	安西 益男
28 番	安澤 徳順		

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

第1号から監査委員、都市計画課長を除く

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第5号)

昭和59年9月26日午前10時開議

日程第1	議案第55号	館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第56号	館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第57号	館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

- | | | |
|-------|-----------|--|
| | 議案第 6 1 号 | 昭和 5 9 年度館山市一般会計補正予算 (第 2 号) |
| 日程第 2 | 議案第 5 8 号 | 館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | 議案第 5 9 号 | 館山市廃棄物処理施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | 議案第 6 0 号 | 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について |
| | 議案第 6 2 号 | 昭和 5 9 年度館山市国民健康保険特別会計補正予算 (第 1 号) |
| | 議案第 6 3 号 | 昭和 5 9 年度館山市老人保健特別会計補正予算 (第 1 号) |
| 日程第 3 | 請願第 5 号 | 少額貯蓄非課税の現行制度存続に関する意見書の提出を求める請願書 |
| 日程第 4 | 陳情第 2 号 | 福祉施設建設に関する安房郡市広域市町村圏事務組合へ意見書提出を求める陳情書 |
| 日程第 5 | 認定第 1 号 | 昭和 5 8 年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第 2 号 | 昭和 5 8 年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第 3 号 | 昭和 5 8 年度館山市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第 4 号 | 昭和 5 8 年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第 5 号 | 昭和 5 8 年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第 6 号 | 昭和 5 8 年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第 7 号 | 昭和 5 8 年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について |
| | 認定第 8 号 | 昭和 5 8 年度館山市国民宿舎事業特別会計収 |

支決算の認定について

日程第 6 発議案第 3 号 国庫補助負担率引き下げによる地方負担転嫁に反対する意見書について

日程第 7 発議案第 4 号 人事院勧告の完全実施を求める意見書について

日程第 8 議案第 6 4 号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について

日程第 9 議案第 6 5 号 館山市教育委員会委員の任命について

開 議 午前 10 時 06 分

○議長（石井 正君） 本日の出席議員数 27 名、これより第 3 回市議会定例会第 5 日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議案の配付

○議長（石井 正君） 議案を配付いたさせます。配付漏れはございませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

継続審査について

○議長（石井 正君） この際申し上げます。

去る 9 月 18 日の本会議において総務委員会に付託されました議案第 54 号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について、委員長から会議規則第 75 条の規定により閉会中の継続審査とされたい旨の申し出がありました。

お諮りいたします。本案を委員長からの申し出のとおり閉会中の継続審査といたしますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第 1、議案第 55 号乃至議案第 57 号及び議

案第 61 号の各議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

○議長（石井 正君） ただいま議題となりました各議案は去る 9 月 18 日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長横溝 功君。御登壇願います。

（総務委員会委員長横溝 功君登壇）

○総務委員会委員長（横溝 功君） 去る 9 月 18 日開会の本会議におきまして総務委員会に付託されました議案第 55 号乃至議案第 57 号及び議案第 61 号につきましては、19 日総務委員会を開催し、慎重に審査の結果、全員一致原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過について主なる事項を申し上げます。

議案第 57 号館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について、その概要をただしましたところ、地方税法の改正に基づき昭和 60 年度施行されるものについての市税条例の改正であり、主なる内容は市民税所得割に係る税率の調整である旨の答弁がありました。

次に、議案第 61 号昭和 59 年度館山市一般会計補正予算第 2 号、コミュニティセンター造成工事設計委託料 488 万円についてただしましたところ、工事内容は擁壁工事、地下抑制工事、埋め立て造成工事を行い、整地をして当面コミュニティ広場として利用するので、そのために委託したとの答弁がありました。

そこで、国道 127 号バイパスの接続地点でもあり、混雑も予想されるので、用地の利用にあたっては市の交通体系上からの検討をしていただきたいと要望いたしました。

次に、社会福祉振興基金助成金 50 万円について説明を求めましたところ、社会福祉協議会において永続的に安定した自主財源の確保を図るために社会福祉振興基金を設置したことに伴い、市が基金に対し助成するものである旨の説明がありました。

次に、土地改良通年施行促進対策事業補助金 43 万円についての説明を

求めましたところ、土地改良事業施行中、工事の円滑を期する目的で補助するものである、通年施行普及促進のための啓蒙に関する経費、営農計画の指導に関する経費、通年施行中用排水対策等に関する経費に対し、市が支出したものについて10畝当たり5000円の範囲内で2分の1の県の補助がある、今回お願いしているのは九重南部ほ場整備事業に対するものであるとの説明がありました。

次に、いちご水耕栽培プラント導入事業補助金43万円についてただしましたところ、連作障害の防止、栽培の省力化について研究するもので、農業後継者で組織する企画研究会に対し補助する旨の答弁がありました。

次に、花き流通改善推進事業補助金33万円についてただしましたところ、花き栽培農家経営安定のため共選共販を推進するもので、西岬の花き組合へ補助する、具体的には花き流通改善推進協議会の設置、モデルほ場の設置、製品出荷の基本計画の策定等行うもので、この際には県2分の1、市が4分の1を補助することになっている、なお昭和60年度ストックの30%の共選共販にもっていききたいとの答弁がありました。

次に、漁業共済掛金補助金の91万5000円についてをただしましたところ、共済制度により漁業経営を安定させようとするもので、今回対象となったものは館山船形漁協の一本釣り、波左間のだいぼ網であり、今後制度が普及するまでの間助成していきたいとの答弁がありました。

次に、道路改良舗装工事測量調査委託料170万円についてただしましたところ、沼の旧コミヤ味工の前から南へ入り館山幼稚園の西側につくった道路に通ずる道路改良についての調査委託料で、幼稚園児の送迎用として幅員が狭く、館山幼稚園園舎改築期成同盟会から改良の要望があったもので、延長350mの間を路線幅員4.5mとしようとするものであるとの答弁がありました。

次に、海水汚染問題については、本会議においても取り上げられたが、抜本的な雑排水の処理計画を検討すべきではないかとただしましたところ、基本的には下水道の整備以外に方法はないと考える、これには多額の経費を要することであり、その施行にはなかなかの困難さがある、富山、白浜で設置した施設は、小部落を対象とするものであり、本市で実施する場合は多額の経費が必要となり、不適合な施設だと考える旨の答弁がありまし

た。

次に、館山駅西口地区土地区画整理事業の今後の予定についての説明を求めましたところ、現在関係地権者120名と話し合いを行っており、来年度中に事業認可を受けたい、その後準備期間を2年ほど経て62年ごろ工事着工、完成はおおむね67、8年ということで計画を進めているとの説明がありました。

次に、館山駅東西歩道橋の交渉の状況についての説明を求めましたところ、土地区画整理事業の中で公共施設については部分的に供用開始ができるということで、駅前広場の完成までに橋上駅舎または東西自由通路ができるように千葉鉄道管理局と協議を進めている、国鉄としては現在調査の段階で、事業認可の時点でさらに細かく協議をしていきたいということであるとの説明がありました。

次に、館山運動公園開園式委託料100万円が計上されているが、管理運営はどうなるかの説明を求めましたところ、館山運動公園ということで管理は財団法人千葉県地域整備協会へ委託すると聞いている、維持管理費は県が負担し、使用にあたっては有料である、土地については館山市が無償で貸与ということになっているとの説明がありました。

次に、館山市での運営はできないかとただしましたところ、市としても十分検討したが、最終的に市の持ち出しが多額になるため県で運営をお願いしたいとの答弁がありました。

以上、本委員会に付託されました議案4件について審査の概要を申し上げましたが、満場の賛同を賜りますようお願い申し上げ、総務委員会委員長報告といたします。

○議長（石井 正君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

討 論

○議長（石井 正君） これより討論に入ります。

通告がありますので、発言を許します。

1番議員神田守隆君。御登壇願います。

(1 番議員神田守隆君登壇)

○1 番 (神田守隆君) 議案第 5 5 号、5 6 号、5 7 号及び第 6 1 号、各議案に反対の討論をいたします。

第 5 5 号は市長の給与を 6 2 万 3 0 0 0 円から 6 5 万 5 0 0 0 円に引き上げようとするものでありますが、館山市と人口や財政規模の近い市を比べてみますと、四街道 5 6 万円、浦安 6 3 万円、富津 6 2 万円、鎌ヶ谷 6 3 万円等である、人口 5 万から 1 0 万人の県内 1 0 市の市長給与の平均は 6 1 万 6 0 0 0 円余であります。現行の 6 2 万 3 0 0 0 円は他市に比べて遜色のないものであり、特に引き上げの必要はないと考えます。

教育長らの給与も同様であります。

これらに伴う補正予算等は当然認められません。

議案第 5 7 号は館山市市税条例の一部を改正する条例の制定についてありますが、地方税法の改正に伴い個人市民税の所得割の最低税率を引き上げ、税率適用をより低所得の階層からも行おうとするものであります。個人市民税はもともと大衆課税の性格の強い税制であります。今回の改正はその性格をさらに強めるものと言わなければなりません。このような条例の改正に反対いたします。

○議長 (石井 正君) 以上で 1 番議員君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論ございませんか。——討論なしと認めます。以上で討論を終結いたします。

採 決

○議長 (石井 正君) これより採決いたします。

採決は一括して起立により行います。

議案第 5 5 号乃至議案第 5 7 号及び議案第 6 1 号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長 (石井 正君) 起立多数であります。よって議案第 5 5 号乃至議

案第 57 号及び議案第 61 号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第 2、議案第 58 号乃至議案第 60 号及び議案第 62 号、議案第 63 号の各議案を一括して議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

○議長（石井 正君） ただいま議題となりました各議案はともに去る 9 月 18 日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長石井武敏君。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長石井武敏君登壇）

○文教民生委員会委員長（石井武敏君） 御報告を申し上げます。

去る 18 日の本会議におきまして文教民生委員会に付託をされました各議案につきまして、過ぐる 20 日委員会を招集いたしまして慎重審議いたしました。

以下、審査をいたしました主なる事項と結果につきまして申し上げます。

まず、議案第 58 号に関しましては、自己搬入の一般廃棄物について従前は 100 kg 未満が無料となっていたが、今回これを 30 kg 未満とした理由について、また一般家庭において多量に搬入した場合は手数料を徴収するかどうか説明を求めましたところ、事業活動に伴い多量に排出する一般廃棄物の自己搬入については条例で 30 kg 以上と規定しているので 30 kg とした、一般家庭からの自己搬入については無料であるとの説明がありました。

本議案につきましては、全員一致をもちまして原案どおり可決をいたしました。

次に、議案第 59 号に関しましては、正木処理場の廃止の時期、また跡地の利用、土壌の汚染調査について尋ねましたところ、時期は来年の 4 月以降になる、跡地の利用については検討中である、土壌汚染の心配はない

と思うが、万全を期していくとの説明がありました。

また、現在まで業者が処理したことにより市費の支出が少なくて済んだ面があると思うが、新しい施設移行の際に特別な配慮をすべきではないか、また用地についても助成すべきではないかとたどしましたところ、従前も業者の申し出により行っているし、営業として行っているので特別な措置は考えていない、新しい施設での処理にあたっても用地は業者で解決してもらうとの答弁がありました。

また、清掃センターの耐用年数については厚生省基準15年であり、職員の勤務体制は昼夜にわたり、特殊勤務、深夜勤務手当が支給される等説明がありました。

本議案につきましては、全員一致をもちまして原案どおり可決をいたしました。

次に、議案第60号に関しましては、特定療養費制度について、大学病院等で診療を受けた場合、従前は保険の中で行ってきたがあとでの償還になるとの説明がありました。

また、法改正による国保会計への影響はどうか、今後の動向により地方の負担増大が憂慮される、市民総ぐるみの運動が必要ではないかとたどしたところ、医療保険制度に矛盾があり、そのしわ寄せが国保にきている、市長会等でも十分運動をしている、今後も努力すると答弁がありました。

本議案に関しましては、国保への補助金削減は国保税の引き上げを余儀なくする問題もあるとして反対討論があり、起立により採決をし、賛成多数をもちまして原案どおり可決をすべきものと決しました。

次に、議案第62号につきましては、国保税の徴収の現況、徴収対策について説明を求めましたところ、58年度は82.27%であり、滞納の理由としては老人、低所得者階層が多いこと、景気の低迷が考えられる、実態を十分掌握し、納税相談を強化していると説明がありました。

本議案に関しましては、今回の補正は退職者医療制度の創設により行われたもので、国庫補助の削減の穴埋めをする形になっているので、国保税増税につながるとして反対討論があり、起立により採決をしました。

採決の結果は、賛成多数をもちまして原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第 63 号については、全員一致をもちまして原案どおり可決をいたしました。

以上をもちまして委員長報告といたします。どうかよろしく願います。

○議長（石井 正君） 以上で委員長報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

討 論

○議長（石井 正君） これより討論に入ります。

通告がありますので、発言を許します。

1 番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1 番議員神田守隆君登壇）

○1 番（神田守隆君） 議案第 60 号館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定及び議案第 62 号館山市国民健康保険特別会計補正予算につきまして反対の討論を行います。

退職者医療制度の創設そのものはわが党の主張してきたところでもございます。しかし、今回の健康保険法改正に伴う退職者医療制度の創設は、国は全く負担せず給付に要する費用を退職者の保険料と被用者保険からの拠出金による基金に押し付けてしまったものであります。その上、政府は退職者医療によって国民健康保険の財政負担が軽くなるとして、国保への国庫補助金を大幅に削減してしまいました。このため、館山市国保は市の試算によっても 7000 万円の新たな負担をしなければならず、これは、国保税 8% の値上げに相当することになります。今回の退職者医療制度の創設はこのような国民への新たな負担増と一体のものであり認めることはできません。

退職者医療制度に対する国庫負担の新設を主張するとともに、国保への国庫補助の削減に反対し、いまこそ市民ぐるみの運動で国民の医療保険を守ることを呼びかけ議案第 60 号及び 62 号反対の討論といたします。

○議長（石井 正君） 以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論ございませんか。——討論なしと認めます。以

上で討論を終結いたします。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第58号及び議案第59号について採決いたします。

議案第58号及び議案第59号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって議案第58号及び議案第59号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第60号館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定についてを起立により採決いたします。

議案第60号についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よって議案第60号館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第62号昭和59年度館山市国民健康保険特別会計補正予算について起立により採決いたします。

議案第62号についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よって議案第62号昭和59年度館山市国民健康保険特別会計補正予算は原案どおり可決されました。

次いで、議案第63号昭和59年度館山市老人保健特別会計補正予算について採決いたします。

議案第63号についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よって議案第63号昭和59年度館山市老人保健特別会計補正予算は原案どおり可決されました。

請願書の上程

○議長(石井 正君) 日程第3、請願第5号少額貯蓄非課税の現行制度存続に関する意見書の提出を求める請願書を議題といたします。

総務委員会委員長報告

○議長(石井 正君) ただいま議題となりました請願書は去る9月18日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより本請願書に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長横溝 功君。御登壇願います。

(総務委員会委員長横溝 功君登壇)

○総務委員会委員長(横溝 功君) 請願書の審査の結果について御報告申し上げます。

請願第5号少額貯蓄非課税の現行制度存続に関する意見書の提出を求める請願書につきましては、19日の委員会において審査の結果、全員一致をもって採択すべきものと決しました。

以上、御報告申し上げます。

○議長(石井 正君) 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告はありませんでした。討論はございませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終結いたします。

採 決

○議長(石井 正君) これより採決いたします。

請願第5号についての委員長の報告は採択であります。

本請願書を委員長の報告どおり採択と決しますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よって請願第5号は採択すべきものと決しました。

日程の追加

○議長(石井 正君) お諮りいたします。

ただいま採択と決定されました請願書に付帯して発議案第5号少額貯蓄非課税の現行制度存続に関する意見書についてが提出されました。

この際、本発議案を日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よって本案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

○議長(石井 正君) 発議案第5号少額貯蓄非課税の現行制度存続に関する意見書についてを議題といたします。

議案を配付いたさせます。

(議案配付)

○議長(石井 正君) 配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

議案の内容説明

○議長(石井 正君) 議案の説明を求めます。

(10番議員横溝 功君登壇)

○10番(横溝 功君) 発議案第5号少額貯蓄非課税の現行制度存続に関する意見書について提案理由を御説明申し上げます。

御承知のとおり政府におきましては来年度予算編成に向けて郵便貯金やマル優などの非課税貯蓄制度の見直し作業を進めておりまして、すでに税制調査会の中間報告についての報道もされておりますが、国民生活に大きく影響する問題でありますだけに今後の動向が注目されます。

したがいまして、本市議会といたしましても、ただいま採択されました請願書の趣旨を体しまして本制度の存続を関係機関に要望いたしたく、9名の賛成者を得まして本案を提出いたしたものであります。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明いたします。

○議長（石井 正君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（石井 正君） よって、これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

陳情書の上程

○議長（石井 正君） 日程第4、陳情第2号福祉施設建設に関する安房郡市広域市町村圏事務組合へ意見書提出を求める陳情書を議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

○議長（石井 正君） ただいま議題となりました陳情書は去る9月19日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより本陳情書に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長石井武敏君。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長石井武敏君登壇）

○文教民生委員会委員長（石井武敏君） 御報告を申し上げます。

去る19日の本会議におきまして文教民生委員会に付託をされました陳情第2号につきましては、20日に行われました委員会において審査をいたしました。

本陳情につきましては、陳情に関して市の方ではどのように受け止めているかと説明を求めましたところ、昨年5月期成同盟会ができたときに話を聞いた、前々から要望があり市でも県に対して設置を要望したが、県ではむずかしいので広域圏で行ったらということであった、広域圏にも陳情があり理事会にも経過を話した、また各市町村長とも基本的に賛成をしており具体的な検討段階に入っている、また国の補助のほかに船舶振興会等の補助もあり市町村の施設費の負担はそれほど多くはないと説明がありました。

本陳情に関しましては、全員賛成をもちまして採択すべきものと決しました。

以上、経過と結果を申し上げまして、委員長報告といたします。

○議長（石井 正君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告はありませんでした。討論ございませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終結いたします。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

陳情第2号についての委員長の報告は採択であります。

本陳情書を委員長の報告どおり採択と決めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よって陳情第2号は採択すべきものと決しました。

日程の追加

○議長(石井 正君) お諮りいたします。

ただいま採択と決定されました陳情書に付帯して発議案第6号障害者更生施設の早期建設に関する意見書についてが提出されました。

この際、本発議案を日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よって本案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

○議長(石井 正君) 発議案第6号障害者更生施設の早期建設に関する意見書についてを議題といたします。

議案を配付いたさせます。

(議案配付)

○議長(石井 正君) 配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

議案の内容説明

○議長(石井 正君) 議案の説明を求めます。

(20番議員石井武敏君登壇)

○20番(石井武敏君) 発議案第6号の障害者更生施設の早期建設に関

する意見書につきまして提案理由を御説明申し上げます。

県南地域に障害者のための更生施設をという要望が多年にわたってなされておりますことは周知のとおりであります。本市におきましては福祉作業所を開設する等障害者の福祉向上に努めておりますが、さらに広域的な立場に立った障害者対策の推進が必要であると考え、ただいま採択をされました陳情書の趣旨を体しまして意見書として提出いたしたく、8名の賛成者を得まして本案を提案いたすものであります。

満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明といたします。

○議長（石井 正君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（石井 正君） よって、これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第5、認定第1号乃至認定第8号昭和58年度一般会計及び特別会計決算を一括して議題といたします。

決算審査特別委員会委員長報告

○議長（石井 正君） ただいま議題となりました各会計決算は、ともに去る9月19日の本会議において特別委員会を設置し、付託されたものがあります。

よって、これより本決算に対する決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

決算審査特別委員会委員長安西益男君。御登壇願います。

（決算審査特別委員会委員長安西益男君登壇）

○決算審査特別委員会委員長（安西益男君） 認定第1号乃至認定第8号昭和58年度館山市一般会計及び特別会計決算に係る決算審査特別委員会における審査の経過及び結果について御報告申し上げます。

去る19日の本会議におきまして本委員会に付託されました各決算につき、21日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

審査にあたっては、提出された説明資料に基づき市当局の考えをただし、あるいは処理状況の報告を求め、さらに今後改善すべき点、検討を要する事項を指摘、要望しつつ審査を行った次第であります。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、論議されました主なる点につきまして御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出第2款総務費であります。総務管理費中、千葉県市町村公平委員会負担金9万5774円が支出されておりますが、公平委員会の活動内容について説明を求めましたところ、職員の勤務条件に関する措置の要求の審査、職員の不利益処分に対する申し立ての審査等を行っており、58年度1件であったとの説明がありました。

次に、交通安全対策費中、交通対策審議委員会委員報酬2万9400円が支出されておりますが、審議された内容等について説明を求めましたところ、委員会は8人の委員で構成し、58年度は1回の会議を行い、交通市民運動について、交通事故の発生状況、交通安全施設の現況等について検討したとの説明がありましたが、今後さらに活発な活動が行われ、抜本的な交通安全対策の推進が図られるよう要望いたしました。

次に、電子計算機費の支出に関連しまして、電子計算機の導入による具体的な効果について説明を求めましたところ、導入による具体的な経済効果については計算がむずかしいが、58年度末の概算で、人数として25

名程度の節減がされていると考えられる、それ以外にも事務の迅速化、読みやすい文書の作成等により住民サービスの向上が図られているとの説明がありました。

さらに、現在電子計算機により処理されている事務の民間委託についての考え方を問いましたところ、民間委託を行っている他の自治体においても直接導入による方法を採用しようとする傾向にあり、直営の方が経費節減が図れること、プライバシー保護の問題等から委託は現在考えていない旨の答弁がありました。

次に、第3款民生費であります、老人福祉費中、老人クラブ補助金が支出されていますが、この補助金の支出の内訳について説明を求めましたところ、3分の2県からの補助のあるもので、内訳は、単位クラブに対して1クラブ年間4万8000円ということで120クラブ分576万円、連合会に対しては122万9620円支出したとの説明がありました、趣味クラブへの配分等について少額過ぎるという声も聞かれるので、検討されるようにとの要望がなされました。

次に、第4款衛生費であります、じん芥処理費に関連して、ごみの搬出場所付近の散乱が目立つので解決のための体制を整えるべきではないか、また市街地の収集にあたって時間帯によっては交通混雑につながるのではないかと指摘がなされ、ごみ収集の合理的な運営について今後検討をされるよう要望いたしました。

次に、第5款労働費であります、労働諸費中、全国勤労青少年ホーム協議会負担金が支出されていますが、これに関連しまして、当市の勤労青少年ホームで開催される講座等が勤労青少年の望んでいるものにこたえていないのではないかと指摘に対しまして、勤労者、事業所等の要望を反映して成人大学講座並びに青年教室等を設けているが、指摘された事項については公民館運営協議会に反映してアンケート等とるなど講座等の充実を期していきたいとの考えが示されました。

なお、現在、勤労青少年ホームが公民館運営協議会によって運営がなされておることについて、勤労青少年ホームの独自の運営協議会を設置して運営すべきであるとの意見がありました。

次に、第6款農林水産業費であります、農業振興費中、農村青年グル

ープ育成事業補助金 12 万円、農業企画研究会育成事業補助金 30 万円が支出されていますが、対象者、活動の内容について説明を求めましたところ、農村青年グループについては、現在 25 歳までの者 15 名、企画研究会については 40 歳までの者約 50 名が加入しており、野菜、畜産、花卉の 3 部門に分かれてそれぞれ農業改良普及所等の指導を受け研修活動をしているとの説明がありましたが、新しい時代に対応した農業経営のためには広範な知識が必要となり、地場産業の育成を含めて今後においても積極的に推進されるよう要望いたしました。

次に、第 7 款商工費であります、観光費中、館山市観光振興事業補助金 9890 万円が支出されていますが、オープンした館山スポーツの里の利用状況について説明を求めましたところ、7 月 7 日から 9 月 17 日の間の利用者は 4963 名であり、年間利用者 2 万 4800 名を目標にしているとの考えが示されました。

次に、第 9 款消防費であります、防火水槽等の設置状況について説明を求めましたところ、現在、防火水槽につきましては 287 基設置されており、年間計画として防火水槽については 4 基から 6 基、消火栓については大体 10 基の設置を予定して整備を進めており、充足率は消火栓を含め 68.3% であるが、年次計画に基づき昭和 65 年度までに 75% にもっていききたいとの考えが示されました。

さらに、市街地等において水道管等の関係で消火栓の設置ができないところがあるのではないかと指摘に対しまして、現在の消防自動車の機械力のアップと中継技術の向上もあり、全く水の届かないという危険な場所はないとの説明がありましたが、地震による火災等も憂慮されるので、その整備に万全を期されるよう要望いたしました。

次に、第 10 款教育費であります、学校管理費中、北条小学校校舎補修工事請負費 5110 万円が支出されており、この中で要望の出ている音楽室の補修工事は行われたのか説明を求めましたところ、58 年度において北条小学校の補修工事を行ったが、音楽室の補修は含まれていない、今後その他の改修関係を一切チェックし、総合的な見直しの中で検討していきたいとの考えが示されましたが、早期に改善されるよう要望いたしました。

次に、第11款災害復旧費であります。災害復旧工事の内容については「決算に係る主要な施策の成果に関する報告」の中に示されておるところであります。特に土木施設については57年の台風による災害復旧工事が含まれており、この点については国の補助金を受ける関係でやむを得ない旨の説明がありましたが、復旧工事の遅れによる災害が起こらないよう、できるだけ早期に復旧されるよう要望しました。

次に、第12款公債費であります。58年度における公債比率は16.1であり、地方債許可制限比率は13.0である旨の説明がありました。

次に、第13款諸支出金であります。財政調整積立金が支出されておりますが、基金の運用について考え方をただしましたところ、以前、国の考え方としては指定金融機関をはじめとする市関係金融機関への定期預金を中心とした運用を示されていたが、地方公共団体の歳計現金についても経営的観念を導入して、資本額が確実なものについては他の効率的な運用によってもよいということになり、市においては定期預金のほかに短期運用として外貨預金、国債、現先取り引きにより7000万円の運用利子が出ている、さらに収入役会議、主管課長会議等においても連絡をとり効率的な運用を図っているとの説明がありました。

次に、歳出全般にわたる不用額9500万円出ていることについて、市の考え方をただしましたところ、予算は議会の議決を経ており、議決の趣旨を体し執行しているが、一つの見積もりであり、有効的に執行するなかで不用額が生じている、多額のものについては補正財源として補正しているが、少額のものについては留保している関係で1%前後の不用額を生じているとの説明がありました。

次に、歳入であります。固定資産税の徴収率が他の税目と比べて低いことについて説明を求めましたところ、市民税のように特別徴収の制度がないこと、所有者の所得に関係なく賦課されること、市外居住者の状況が悪いこと等が主な理由と考えられるとの説明がありました。

さらに、滞納の実態について説明を求めましたところ、高額滞納者は国保税を含めて100万円以上52人、1億4302万円、50万円以上100万円未満144人、8920万円であり、高額滞納者の滞納総額は国保税を除き1億6689万円で収入未済額の67%、業種別にはサービス

業が多く占めているとの説明がありました。

次に、国民健康保険特別会計であります、事務費の超過負担の問題について考え方を伺いましたところ、理論的には国の基準どおりの職員の配置をすれば超過負担はないはずであるが、現実的には各市町村で超過負担が出ている、医療保険の中の各制度間のしわ寄せが国保にきているという形で、根本的に医療保険制度全体の中で改善を図っていかねばならないと考えている、国では5年乃至6年後を目標にして医療制度の抜本的な改正を図る計画のようで、改正の方向に努力すべきだとの考えが示されました。

次に、財政調整基金については、59年3月31日現在で2億1892万8125円であり、不測の事態に対処するため、県の指示もあり医療費の2ヵ月程度の積み立てを考えているとの説明がありました。

次に、老人保健特別会計であります、58年度から59年度にかけて医療給付費の伸びを予算では8%見ているとの説明がありました。

次に、と畜場特別会計であります、館山市と畜場については59年度限りで廃止をする考えであることを表明されておりますが、流通経路上の問題から、また畜産振興上の問題から存続する考えはないかたまたましたところ、現在館山市民の使用している肉類は市外から入っていること、緊急と場としての指定はされているが、安房郡市町村別の飼育頭数、58年度の生産頭数からみても圧倒的に市外のものが多いことから、一般会計からの繰り入れが慢性化してきている中で市営と畜場として存続すべきではないと考えているとの説明がありました。

次に、ユースホステル特別会計であります、最近の利用状況について説明を求めましたところ、昭和55年から58年にかけて漸減しており、この理由としては若者のペンション志向、ユース離れ、施設の老朽化ということが挙げられるが、今後、施設については年次的に修理を行いイメージアップを図るとともにPRに努めていきたい旨の説明がありました。

次に、討論を行い、一般会計決算については、人事院の勧告の完全実施がされなかったこと、国民健康保険特別会計決算については、1億4400万円の黒字決算となっているが、国保税が非常に高額になっていることを理由に反対討論がありました。

また、予算執行は、議会の議決事項に従って、その目的に沿っておおむね適正に執行されたと認められるとの賛成討論がありました。

採決の結果、認定第1号一般会計決算及び認定第2号国民健康保険特別会計決算については賛成多数をもって、認定第3号乃至認定第8号の各特別会計決算については全員一致をもっていずれも認定すべきものと決しました。

以上、決算審査特別委員会におきます審査の概要を御報告申し上げましたが、満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げまして、委員長報告を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

討 論

○議長（石井 正君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

1番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1番議員神田守隆君登壇）

○1番（神田守隆君） 認定第1号昭和58年度館山市一般会計決算及び認定第2号館山市国民健康保険特別会計決算のそれぞれの認定に反対の討論をいたします。

まず、一般会計決算についてであります。

58年度は、地方交付税が対前年度2億4356万5000円と大幅に減額となりましたが、これは館山市財政が豊かになったことを意味するものではなく、自民党中曽根内閣が軍備拡大の財源確保のために地方自治体の財源不足に必要な手だてを講じようとしなかったことの結果であります。地方交付税の大幅な削減は交付税制度そのものの改悪へとエスカレートし、さらに国庫負担金等の10%カットさえも実施されようとしています。これらの一連の措置は地方自治の存立そのものに対する中曽根内閣の攻撃と言わざるを得ません。

こうした中であって、問題は、58年度の館山市政が市民とともに地方

自治を発展させ、市民生活を真に守るものであったかどうかということでもあります。

ところが、昨年度は、市民の暮らしに直結する市民税は対前年比8.9%、固定資産税は8.4%の増税となり、しかも住民票や各種証明書の手数料やグランドなど社会体育施設の使用料など多くの公共料金の値上げが実施されました。この結果、3億3450万3000円余の黒字決算となったわけであります。公共料金値上げの緊急性がなかったことがこの決算からもうかがえます。

半澤市政が中曽根政治に追随し、市民に犠牲を転嫁したものと云わざるを得ません。このような決算の認定に賛成することはできません。

市民生活を守り、市民とともに地方自治を発展させる立場に立つよう求め、次の点を特に主張し、反対討論といたします。

第1点、新年度予算編成にあたっては、市民生活を直撃する各種公共料金の値上げをしないこと。第2点、少ない水資源を有効に活用し、市民に安く良質の水を安定的に供給すること。当面、水問題の総合的な施策の確立を図ること。第3点、財政調整基金10億5500万円余は市民の財産であります。その活用方法について市はその考えを積極的に明らかにすること。第4点、地方自治体に対する国の財政圧迫や自治介入に反対し、地方自治を守る立場に立つこと。こうした立場から県人事委員会の勧告を尊重し、その完全実施をすること。以上の点を特に主張し、反対討論といたします。

続いて、認定第2号館山市国民健康保険特別会計の決算の認定についてでございます。

58年度国保会計の国保税不納欠損は1027万5000円余で、前年度に比べて189.5%と大幅に増えています。徴収率も前年度に比べて2.6%のマイナスで82.3%と落ち込みました。こうしたことの結果は、いまの制度のもとでは結局国保の加入者が負担をしなければならず、そのことが国保税をさらに引き上げ、そのことがまたさらに徴収率の低下を招き、不納欠損額を増大させるという悪循環を繰り返しているのであります。

もはや、国保税は負担の限界を越えているのです。国の国保に対する助

成の拡大を強く求めるところでありますが、当面、市においても一般会計の繰り入れを含めて検討するべきであります。もはやそういう時期にきていることを強調いたしまして、私の反対討論といたします。

○議長（石井 正君） 以上で1番議員君の討論を終わります。

通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論ございませんか。——討論なしと認めます。以上で討論を終結いたします。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、認定第1号一般会計決算について起立により採決いたします。

認定第1号についての委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。

認定第1号を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よって認定第1号一般会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第2号国民健康保険特別会計決算について起立により採決いたします。

認定第2号についての委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。

認定第2号を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よって認定第2号国民健康保険特別会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第3号乃至認定第8号の各特別会計決算について一括して採決いたします。

認定第3号乃至認定第8号についての委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。

認定第3号乃至認定第8号を委員長の報告どおり認定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よって認定第3号乃至認定第8号の各特別会計決算はいずれも認定することに決しました。

議案の上程

○議長(石井 正君) 日程第6、発議案第3号国庫補助負担率引き下げによる地方負担転嫁に反対する意見書についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

議案の内容説明

○議長(石井 正君) 議案の説明を求めます。

(24番議員流山源次郎君登壇)

○24番(流山源次郎君) 発議案第3号国庫補助負担率引き下げによる地方負担転嫁に反対する意見書について提案理由を御説明申し上げます。

御承知のとおり、政府は昭和60年度の概算要求において社会保障関係を初め公立学校施設整備費等の国庫補助負担率を一律に引き下げ、地方への負担転嫁を図ろうとしています。

このような地方への負担転嫁は財政秩序を乱し、国と地方の信頼関係を覆すものであるとして、地方各団体におきましては強力な反対運動を行っております。

本市議会にいたしましても、その運動の一環として関係機関に対し意見書を提出いたしたく、お手元に配付のとおり7名の賛成者を得まして本案を提出いたした次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明いたします。

○議長(石井 正君) 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（石井 正君） よって、これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第7、発議案第4号人事院勧告の完全実施を求める意見書についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

議案の内容説明

○議長（石井 正君） 議案の説明を求めます。

（24番議員流山源次郎君登壇）

○24番（流山源次郎君） 発議案第4号人事院勧告の完全実施を求める意見書について提案理由を御説明申し上げます。

御承知のとおり、国におきます財政再建、行政改革の推進等が緊急課題となっておる中にありまして、人事院勧告の完全実施が見送られてきております。本年度の勧告取り扱いにつきましても種々論議が重ねられており、3年間続けて完全実施されないことになれば人事院勧告制度の本旨を損なうばかりでなく、国民生活への影響が憂慮されるところであります。

したがって、この際、本市議会といたしましても関係機関に対し、

人事院勧告の完全実施を要望いたしたく、お手元に配付のとおり7名の賛成者を得まして本案を提出いたしたものであります。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明いたします。

○議長（石井 正君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（石井 正君） よって、これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第8、議案第64号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（石井 正君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

○議長（石井 正君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第64号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について提案理由の説明を申し上げます。

館山市固定資産評価審査委員会委員中、福島信治君が昭和59年10月5日をもって任期が満了いたしますので、後任といたしまして秋丸清彦君が適任と信じますので御賛同賜りますようお願い申し上げます。

○議長（石井 正君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（石井 正君） よって、これより採決いたします。

固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって本案はこれに同意することに決しました。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第9、議案第65号館山市教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（石井 正君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

○議長（石井 正君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第65号館山市教育委員会委員の任命について提案理由の説明を申し上げます。

館山市教育委員会委員中、吉田政弘君、安田豊作君が昭和59年9月30日をもって任期が満了いたしますので、後任といたしまして人格、識見ともに優れている福原 修君、正木高剛君の両君を適任と考え、任命いたしたく存じます。

御賛同賜りますようお願い申し上げます。

○議長（石井 正君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって本案については委員会の付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。討論ございませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終結いたします。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、福原 修君について起立により採決いたします。

福原 修君を教育委員に任命する件は、これに同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よって福原 修君を教育委員に任命する件については、これに同意することに決しました。

次いで、正木高爾君について採決いたします。

正木高爾君を教育委員に任命する件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって正木高爾君を教育委員に任命する件については、これに同意することに決しました。

閉 会 午前 11 時 25 分

○議長（石井 正君） 以上で本定例会に付議されました案件は議了されました。

よって、これにて第3回市議会定例会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

- 1 継続審査について（議案第54号）
- 1 議案第55号乃至議案第65号
- 1 請願第5号
- 1 日程の追加・発議案第5号
- 1 陳情第2号
- 1 日程の追加・発議案第6号
- 1 認定第1号乃至認定第8号
- 1 発議案第3号、発議案第4号

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

第山市議会議長 石 井 正

第山市議会議員 横 溝 功

第山市議会議員 近 藤 好 雄